

## 姫治地区懇談会での主な意見と回答

日 時 平成29年1月14日(土)午後1時~午後2時30分

場 所 姫治公民館

出席者 32人

市長による講演「住みごち一番・可児 かに暮らし情報発信元年」の後、質疑応答が行われました。

【意見】県道善師野多治見線が新しくなったことに伴い、姫治地区内を通る市道42号線の通行量、特に大型車両の通行が増えました。県道との交差点が狭く、大型車両が曲がる時などは旭小学校の通学路になっているため危険です。また、追い越しをする車両などもあり、事故が起こらないか心配です。追い越しの規制や速度制限標識の増設など対策を講じることはできないでしょうか。もし道路改良が難しければ、県道から市道への流入を抑えることを検討できないでしょうか。

【回答】地域が活性化すればするほど、通行量が増加して危険も増えるという側面があり、市としても大変悩ましいところです。追い越し規制や標識設置については、所管する公安委員会に確認します。道路の改良は、市全体の道路について通行量などの状況を考慮しながら、優先度を考えて計画的に進めていますので、今後その中で検討します。

【意見】全国的にふるさと納税の返礼品競争が過熱化しています。市でも返礼品のカタログを作成するなど取り組まれています。ふるさとの応援という本来の趣旨に沿った取り組みを進めていただきたいと思います。また、企業版ふるさと納税が創設されました。市内には大きな企業が多くありますので、市としても企業版ふるさと納税の受け入れに積極的に取り組んでいただきたいと思いますがいかがでしょうか。

【回答】ふるさと納税の返礼品競争については市としても懸念していますが、現実として他自治体への寄附金の流出が目立ってきました。そこでやむを得ず本市でもカタログの作成などの取り組みを始めたところです。ただし、返礼率を低めに設定するなどしています。市民の皆さんにも他の自治体ではな

く、ぜひ可児市を応援していただきますようお願いします。

また企業版ふるさと納税については、企業の本社所在地への寄附は対象外であったり、寄附金を活用する事業は新規のものでなければならなかったりするなど、非常にハードルが高い制度になっています。もし有効な事業のアイデアがあれば検討したいと思います。

【質問】この地区には華立断層があるといわれています。直下型地震発生の危険性などはないでしょうか。

【回答】県にも確認しましたが、華立断層についてはよく分かっておらず、断定的なことを申し上げることはできません。ただ、直下型地震は数千年から数万年ほどの間隔で発生するといわれており、仮に断層が存在するとしても私たちが生きている間に地震が発生する可能性は非常に低いと思われます。しかし海溝型地震である南海トラフ地震の発生が懸念されますので、災害への備えをしっかりとっていただくようお願いします。